

当院における緩和ケアの歴史は古く、1987年に緩和ケア病棟（現20床）が設置され、1997年には大学病院として初めて緩和ケア病棟として認可されました。2003年には全国初の外科・緩和医療学講座が開設され、2006年には、初めて病院機能評価「緩和ケア機能」を認定取得しました。

当院における緩和ケアを選択するために、そして、患者さん・ご家族が人生の終焉に向けてあらためて生き方を見つめ直す大きな一助となるために極めて重要であると考えられています。また、がん患者さん

看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、鍼灸師、歯科衛生士、医師、ソーシャルワーカーなど、多職種が連携して、患者さんやご家族の意思を尊重し、今を生き延び、安らぎを感じながら進行し終末期になつた時、「終末期こそ適切な緩和ケアを実施し、最後まで有意義な社会生活を送れるようにすべきです。」

## 知って得られる医療・介護



藤田医科大学七栗記念病院  
緩和ケア科 村井 美代

### ②0 がん患者さんが悔いなく人生を生ききるために

私たちは開講当初より、進行がん患者さんの予後予測因子に関する研究を継続して行っています。予後予測は、私たち医療人が患者さんにとって最適な治療方法

至るまで、エビデンス（科学的な根拠や検証結果）を加えてナラティブ（患者さんの生きてきた人生から生じる価値観）に基づいた緩和ケアを、多職種（医師、歯科医師、

患者さん一人ひとりに真摯に向き合い、患者さんご家族の希望に添った緩和医療、緩和ケアを実践しています。患者さんの不快な症状（痛み、倦怠感、息苦しさ）を軽減し、生活の質の改善を目指しています。また、胸水や腹水などの難治性体液貯留に対しては栄養状態を保ちながら症状を改善できる胸水濃縮濾過再静注法を行っています。

がんが進行し終末期になつた時、「終末期こそ適切な緩和ケアを実施し、最後まで有意義な社会生活を送れるようにすべきです。」という方針に基づき、患者さんおよびご家族の生活の質を向上すべく日々努力しています。一人でも多くのがん患者さんに「幸せな人生だった。」と喜んで頂けたらと、七栗に来てよかった」と言ってもらえるよう緩和医療を提供し続けていきます。